

1. 事業報告

(1) 社会情勢

東日本大震災から8年を経過し、復興工事の進捗率等の数字については、一定の前進がみられるものの、こころの復興や、地域コミュニティの再興等については、人々の意識に感じられるほどは進んでいない状況があるように思われ、むしろ、少子高齢化、人口の流出、既存産業の衰退、医療福祉システムの脆弱性、コミュニティの崩壊による孤独・孤立の顕在化といった震災前から地域に存在していた課題・生きづらさが蔓延している状況が深刻化しているようにも思われる。こういう大変な中であっても、相談の機会を利用する県民は必ずしも増加しておらず、むしろ相談全般に新規の相談が減少している状況もうかがわれる。

また、これまでも見られた傾向ではあるものの、北海道での大地震、西日本での大雨、異常な高温などの自然災害・異常気象がいつになく多く発生し、災害等からの復興の過程で、人と人の結びつきの意義が強調されるものの、その広がりには限定的で、人が人を支えて社会の維持を図るところまでの動きは弱いまま推移したようにも思われる。

他方、我々の活動にかかわる新しい動きもみられた1年ではあった。すなわち、統合リゾート法案と平仄を合わせ、当法人が平成16年から取り組んできたギャンブル問題への対策についても、ギャンブル依存症対策法案として国会で審議されるようになった。これに伴い、依存問題について、これまで以上に注目される状況も出てきている。

総じていうと、生き方、社会の在り方に関するモデルが失われ、個人の間には不安が広がる中で、国の施策についてもドラスティックな前進がもたらされるというよりは、少し進んでは、立ち止まり（立ちすくむ？）ということを繰り返してきたような状況で推移してきたように思われる。

(2) くらしとお金の安心支援事業

当センターはこういった社会情勢もあって困窮している県民のため、セーフティネット諸制度のポータルサイト機能として、また生活再建に向けて必要に応じて寄り添って伴走する『くらしとお金の安心支援事業』を平成21年2月以来、実施してきた。

今年度は、相談件数が年間の合計で新規の相談者数127件（前年度は23件）と前年比、452%の大幅な増となっている。相談内容の傾向としては、依存（のめり込み）問題が大きな割合を占めている。

(3) 生活困窮者自立相談支援事業（盛岡市からの委託事業）

平成27年度から、生活困窮者自立支援法が施行され、標記事業を盛岡市から受託させていただき、本年度も相談支援事業を展開した。

具体的な結果としては、全国的な新規相談件数の減少傾向もあって、年間の新規相談件数で354件（昨年度386件）となった。個別の支援実績も延数で7,248件（昨年度8,166件）となり、全般的に件数が減っている状況に

ある。また、法で義務付けられている支援調整会議は、年間で24回（昨年度23回）開催し、130件（昨年度179件）のケースを取り上げ、丁寧かつ関係機関との連携等を重視した支援を展開するよう意識した。

ケースについて所内で行うスクリーニングにかけた件数は、393件（昨年度420件）となっている。

年間を通じての就職決定率は、45.9%（昨年度51.7%）で、210名（昨年度246件）の社会参加等、経済的・社会的な自立に向けた支援も一定程度の成果を上げ、人と人との結びつきの復活に向けて、取組みを進めているところである。

さらに、当面の生活費、食糧にも事欠く相談者が一定程度来所されることから、フードバンク岩手との連携の下、71回（昨年度106件）の緊急支援を実施した。

実際の支援の過程では、プランの承認、支援の終結等を判断する支援調整会議を月2回のペースで開催し、市担当者、ハローワーク相談員、盛岡市社会福祉協議会相談員をコアメンバーとして、随時参加メンバーの拡大を図り、岩手弁護士会貧困問題対策委員会の弁護士の参加もあり、より専門的に支援体制を構築している。

相談者は減少傾向にあるものの、対応に時間を取られることも多かったが、職員研修についても取り組み、コミュニティーソーシャルワークの知識習得・資格取得など、地元で行われる研修を中心に参加し、職員の資質向上に努めた。

（4）自殺対策に関する行政・全国の民間団体との連携

県内の団体で結成しているさんSUNねっとの事務局として、総会、交流会等の運営の中心的な活動を行い、停滞していたネットワーク活動を再び活発にするような取り組みを行った。

（5）ギャンブル依存症問題解決支援事業

ギャンブル依存の問題には、グループカウンセリング等に参加して、気づきを得てまた自らの持つ歪んだ考え方の修正を図ることが解決につながるといわれている。

そこで、当法人では、平成16年以来グループカウンセリングを運営しているが、本年度は常勤の相談員・カウンセラーがいたことから、相談および相談から誘導されるグループカウンセリング参加者も増加した。

盛岡及び北上の2会場での参加者は、去年は合計で延べ162名であったが、今年度は延べの参加者が208名と、28%の増加がみられた。

継続的に参加する参加者には、顕著な回復傾向がみられ、対策としての有効性が感じられた。